

「日本の NDC（国が決定する貢献）（案）」に対する意見

2021年9月29日

全大阪消費者団体連絡会

1. 1.5°C目標に貢献する真に野心的目標として、2030年度の温室効果ガス削減目標を2013年度から60%程度削減とすること。

* 該当箇所 「我が国の温室効果ガス削減目標」 「P2 1.(b)」

IPCC1.5°C特別報告書は、「地球温暖化を2°C又はそれ以上ではなく1.5°Cに抑制することには、明らかな便益がある。」（地球温暖化対策計画案より）とし、「1.5°Cで安定化を図るためには、CO₂排出量が急速に削減し、2030年までに対2010年比で約45%減少、2050年近辺までに正味ゼロに到達が必要。」（2020年10月30日資源エネルギー庁資料より）と指摘する。

2010年比約45%削減を、日本の排出量に当てはめ2013年度比に計算し直すと約49%削減となる。日本は年間排出量5位、累積排出量6位の大量排出先進国であり、世界平均以上の排出削減を行う責任がある。

1.5°C目標に整合する日本の温室効果ガス排出経路を2013年比62%削減とするClimate Action Tracker等の科学の知見に基づき、2013年比60%程度の削減を目標とすべきである。

以上